

1 講座名・定員など

(1) 授業科目

No.	科目名	曜日	時限 (注1)	受講期間	受講 回数	授業形式	定員
①	生命倫理の諸問題③	月	2 限	10/6～11/24	8	オンライン (オンデマンド)	若干名
②	総合文化研究A日本	月	2 限	10/6～11/24	8	対面	5 名程度
③	文化人類学	月	5 限	10/6～1/26	15	対面	5 名程度
④	哲学	月	5 限	10/6～1/26	15	対面	若干名
⑤	保育内容「言葉」の 指導法	火	5 限	10/7～1/27	15	対面	若干名
⑥	免疫学	水	2 限	10/8～11/19	7	対面	若干名
⑦	保育内容「人間関係」 の指導法	水	4 限	10/8～1/28	15	対面	若干名
⑧	幼児と健康	木	1 限	10/9～1/29	15	対面	若干名
⑨	ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ	金	4 限	10/3～1/30	15	対面	若干名
⑩	ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ	金	5 限	10/3～1/23	14	対面 /オンライン	対面・オンライン共に 若干名

(注1) 時限・授業時間

- 1 限： 9：00～10：30
- 2 限：10：40～12：10
- 3 限：13：00～14：30
- 4 限：14：40～16：10
- 5 限：16：20～17：50

※科目、曜日、授業時間等は都合により変更になる可能性があります。

※すべての科目にてインターネット授業支援システム「Webclass」(注2) を利用し、授業に関する連絡(資料配布・課題のお知らせ・レポート提出等)を行う場合があります。

※授業形式は科目ごとに異なりますので、ご注意ください。

①生命倫理の諸問題③は、オンライン授業(オンデマンド受講)となります。講義日にあらかじめ収録した動画を各自で視聴します。講義日までに授業動画の視聴情報(URL等)をWebclass上に掲載しますので、その情報をもとに受講していただきます。

⑩ソーシャルワークの理論と方法Ⅱは、対面授業とオンライン授業の選択が可能です。

②～⑨の科目は、対面授業のみとなります。なお、対面授業においても、オンライン授業（オンデマンド受講を含む）となることもあります。

※⑧幼児と健康について

- ・運動実技の回があり、その際は、体育館シューズと動きやすい服装（ジャージ）が必要になります。
- ・パソコンやスマートフォン等を使う回があります。その際は、ご持参してください。

※⑨ソーシャルワークの理論と方法Ⅰについて

- ・授業中に毎回「Webclass」を使用します。
- ・出席確認、授業中の課題への解答、資料閲覧に必要ですのでノートパソコンやタブレットなどインターネットにアクセスできるものをご持参してください。

※ノートパソコンやタブレットなどの基本的な操作についてのお問い合わせはお受けできません。

※受講者の成績評価はいたしませんので、学期末試験はありません。

（注2）WebClass とは、本学で導入しているeラーニングシステム（学習支援システム）です。授業の教材・資料の閲覧やアンケート・レポート提出等に利用します。

（2）場所

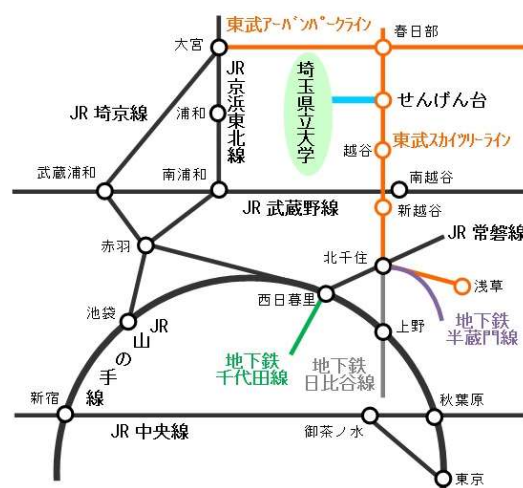
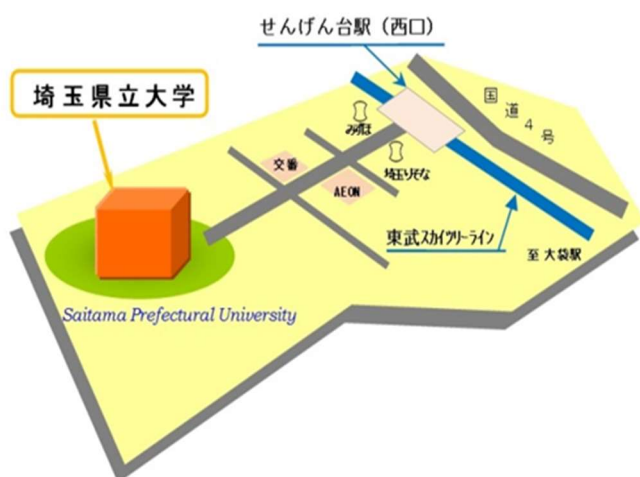
埼玉県立大学 〒343-8540 越谷市三野宮 820 番地

東武スカイツリーライン「せんげん台駅」下車

西口よりバス：5分 徒歩：約20分

※自家用車、バイク等による通学は許可できません。

※公共交通機関、自転車等をご利用ください。



2 受講料等

(1) 受講料

- ・各科目ごとに授業料が必要となります。
※受講回数により授業料が異なります。
8 回相当：6,000 円、15 回相当：10,000 円
- ・受講料は受講決定後に振込となります。
※振込手数料は別途かかります。

No.	科目名	受講料	備考 (受講回数)
①	生命倫理の諸問題③	6,000 円	8
②	総合文化研究A日本	6,000 円	8
③	文化人類学	10,000 円	15
④	哲学	10,000 円	15
⑤	保育内容「言葉」の指導法	10,000 円	15
⑥	免疫学	6,000 円	7
⑦	保育内容「人間関係」の指導法	10,000 円	15
⑧	幼児と健康	10,000 円	15
⑨	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	10,000 円	15
⑩	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	10,000 円	14

(2) その他

教科書等の教材を自己負担によりご用意いただく場合があります。

3 受講の申込み

(1) 申込期限 令和7年8月31日(日)

(2) 申込方法

次の応募フォーム、二次元コードよりお申込みください。

<https://business.form-mailer.jp/fms/b0474261296004>



お申込み完了後（送信後）に受付完了の自動返信メールが届きます。
応募フォーム以外（電話・FAX 等）のお申込みは受け付けておりません。
受付完了メールが届かない、応募についての問い合わせ等ございましたら、
お問合せ先までご連絡ください。

(3) お問合せ先

埼玉県立大学 地域連携センター

E-Mail edec@spu.ac.jp

TEL 048-973-4114

(4) 選抜方法

定員を超える申込みがあった場合は、抽選により受講者を決定します。
受講の可否、受講決定科目は、申込期限以降（9月中旬までに）、申込者全員にお知らせします。

(5) その他

- 申し込み後、都合により受講できなくなった場合は9月30日（火）までにご連絡ください。ただし、一旦納入された受講料につきましては、原則としてお返しすることはできませんので、あらかじめご了承ください。
- 中止または受講方法の変更により受講できなくなった場合に限り受講料をお返しいたします。
- 天候や社会情勢等により、受講方法が変更となる場合があります。変更が生じた場合、受講者へ連絡いたします。
対面授業を予定している科目でも、Zoom等のオンライン授業（オンデマンド受講を含む）となる可能性もございます。
オンライン授業（オンデマンド受講を含む）の場合、大学ではなくご自宅等において受講いただくことになります。パソコン、タブレット等のインターネットに接続できる端末・インターネット通信環境がない場合、受講ができませんのでご注意ください。
ご自宅等で受講いただく場合の通信料は、受講者本人のご負担となります。
- 本学では、病院等への実習を控えた学生もいることから、状況により感染防止対策等をお願いすることがございます。ご協力お願いいたします。

4 各授業科目の概要および、ねらい

生命倫理の諸問題③ (高村 夏輝 准教授)	【概要】 生命倫理学という分野で取り上げられている基本的な問題と、それに対する取り組み方を概説する。 現代社会で自明視される見解や価値観を前提とすると、生命倫理学では大きな問題が生じうることを解説する。 この講義はあらかじめ収録した動画を各自で視聴するオンデマンド授業で行う。 【ねらい】 医療・看護・介護等の現場で生じる倫理問題について、筋道を立てて考える能力を身につける。個々人の生命の問題を当人の個人的な問題として捉えるのではなく、歴史的・社会的文脈の中で捉え、そこにある道徳的問題に対する感受性を持てるようになることを目指す。
総合文化研究A日本 (浅川 泰宏 教授)	【概要】 四国をめぐる巡礼「四国遍路」が織り上げてきた地域の文化を具体的な資料やデータを元に考察します。信仰と伝説、病や貧困、巡礼者援助などに焦点をあてながら、近世から現代の時間軸に沿って、日本の地域社会の姿を掘り下げます。 対面授業が原則ですが、一部オンデマンド授業で実施します。 【ねらい】 ①文化や歴史を通じて、「人間」に興味と敬意を持つ姿勢を養うこと。 ②ディスカッションなどの主体的な学修活動を実施できること。 ③各自の学びを活用して総合的な知を生み出すこと。

文化人類学 (浅川 泰宏 教授)	【概要】 文化人類学は文化(culture)という観点から人間と社会を考える学問です。文化人類学の基本的な考え方を学び、映像資料等も活用した様々な「フィールドワーク」を通して現代社会の多様な「文化」を体験します。 対面授業が原則ですが、一部オンデマンド授業で実施します。 【ねらい】 ①様々な人の営みに触れることで、「人間」に興味と敬意を持つ姿勢を養うこと。 ②学修を通して、自分のアイデアや考えを掘り起こし、形にする能力を養うこと。 ③フィールド資料を通して、文化の多様性とダイナミズムを体験し、様々な価値が共生する社会像を探求する能力を養うこと。
哲学 (高村 夏輝 准教授)	【概要】 心とは何か、心と身体との関係をどう理解するべきかに関する哲学的理論を説明する。人工知能とは心についてどのような考え方を前提しているのかを明らかにする。意識という現象に関わる諸問題を解説する。 【ねらい】 ①近代科学の世界観が説得力を強めるごとに、「心」を捉えることの難しさがより明らかになってきた。その難しさがどこにあるのか、どのように心を理解することが科学的世界観と矛盾しないのかを理解すること。 ②心の中でも、意識という側面は特に科学的に説明が困難だとされている。それはなぜなのか、意識をどのようにとらえればよいのかを理解すること。
保育内容「言葉」の 指導法 (森田 満理子 准教授)	【概要】 乳幼児の言葉の発達を踏まえ、幼児期の言葉を豊かに育む保育のあり方について、学童期との連続性を踏まえつつ学ぶ。 保育の構想のための教材理解や保育実践事例考察、模擬保育等の実践を通して学ぶ。 【ねらい】 幼児の言葉の発達に係る現状や課題を捉え、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 ①領域「言葉」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。 ②主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身に付ける。
免疫学 (伊藤 さやか 准教授)	【概要】 免疫は人体の防御機構を司る不可欠な生体システムであり、臨床検査では様々な物質の測定手段に応用されている重要な分野である。免疫システムの基礎についてイラストや図を多用しながら解説することで、具体的なイメージをもって免疫学を理解してもらうことを目指す。テーマごとに小テストを実施し、理解度の確認を行う。 【ねらい】 免疫学の基礎を具体的なイメージをもって理解することにより、今後の専門科目で必要となる論理的かつ総合的な解釈力を身に着ける礎を築く。

保育内容「人間関係」の 指導法 (森田 満理子 准教授)	【概要】 社会の中で主体として生きていくうえで基本となる、自立、人とのかかわる意欲と人間関係を調整する力、集団生活をすすめる力等を育む保育について、事例考察・指導計画と実践を通して学ぶ。 【ねらい】 ①領域「人間関係」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。 ②主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、乳幼児理解と丁寧な教材研究や環境構成に基づいて保育を構想する方法を理解し、説明できる。
幼児と健康 (五味 葉子 助教)	【概要】 乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要時期である。乳幼児の基本的な生活習慣、乳幼児の運動を中心に、乳幼児の健康理論と健康づくり実践について学んでいく。グループワークや演習を中心に進みます。 【ねらい】 保育内容の領域「健康」は、子どもの健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うという観点でまとめている。乳幼児の基本的な生活習慣や運動のあそびを中心に、子どもの心身の「健康」について学び、自分の言葉で表現することを目指す。
ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ (保科 寧子 准教授)	【概要】 個別援助（ケースワーク）を中心としたソーシャルワークのプロセスや手法・技法について学び、さまざまな社会の課題にソーシャルワーカーが関連職種とともに対応する具体例を理解します。具体的には支援を必要とする人との援助関係の形成や多角的にクライアントを捉えニーズを理解するための知識と技術、ソーシャルワークの過程、スーパービジョン、コンサルテーションなどの概要を学びます。特に支援を必要とする人のニーズを明らかにするためのアセスメントや支援計画については、事例を用いて実践的に理解を深めます。 【ねらい】 ソーシャルワークの理念・価値・倫理を念頭に置き、連携やチームアプローチを意識した個別援助におけるソーシャルワーク実践の方法論について基礎的な知識を身につけます。
ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ (大岡 華子 准教授)	【概要】 社会福祉士・精神保健福祉士に共通するソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーク理論、ソーシャルワークを具体的に展開するために不可欠な実践モデルとアプローチ、実践を豊かに展開するためのグループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて講義をする。この科目の内容を知識として定着させるとともに演習科目や実習指導、ソーシャルワーク実習を通じ、技術として身につけていく必要がある。 【ねらい】 ①グループを活用した支援を理解し、実践できるようになる。 ②コミュニティワークを理解し、実践できるようになる。 ③ソーシャルアドミニストレーション・ソーシャルアクションを理解し、実践できるようになる。 ④ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解し、実践できるようになる。